

古川工業高新聞

駅伝特集号

2018年10月30日

古川工業高等学校

新聞委員会

駅伝・チームで繋ぐたすき

東北大会五年連続出場



チーム一丸となって勝ち取った東北大会

第六九回全国高校駅伝競走大会県予選が10月21日、栗原市若柳総合支所前を発着点として開催された。男子は七区間四二・一九五kmのコース、三九校が参加した。古川駅伝チームは第一区(10km)に小山憂斗選手、第二区(3km)久喜慎吾選手、第三区(8・1075km)佐藤楓選手、第四区(8・0875km)佐竹叶羽選手、第五区(3km)高橋直哉選手、第六区(5km)紺野龍功選手、第七区(5km)千葉拓哉選手らが各区間で力走した。タイムは2時間21分20秒と健闘し見事五年連続の東北大会出場の切符を手中にしました。

今大会はエース不在の中、一人一人が「**チーム古川工業**」で一丸となり、もぎ取った東北大会出場といえます。各選手の感想です。

◇**第一区 小山憂斗**(土木情報科三年) 今年チームにエースがいなくて、総合力の底上げに努めてきました。練習では、昨年よりもお互いに声を掛け合い結束を高めながら、少ない練習時間でしたが、内容の濃いものにできたと思います。昨年の大会で四年連続東北大会に出場し、今年は五年連続東北大会出場へのプレッシャーのかかる中、5位に入り、東北大会へ進むことが出来たことはとても嬉しく思います。

◇**第二区 久喜慎吾**(化学技術科三年) 私は二区を任せられました。二区はスピード区間でもあり一区から貰うのととても大事な区間で色々プレッシャーがありました。五年連続の東北大会

がありましたが、五年連続の東北大会がかかっていたので、頑張ることができました。この東北大会出場を掴み取ることが出来たのも、これまで指導して下さった顧問の先生、送迎や食事管理など支えてくれた保護者の方々、そしてこれまで辛い練習などを乗り越え、切磋琢磨しあってきた仲間がいたからこそ掴み取ることが出来たのだと思います。

◇**第三区 佐藤 楓**(化学技術科二年) 私は三区を任せられたのですが、目標にしていたタイムよりも大幅に落ちてしまいチームに迷惑をかけてしまいました。他のメンバーに助けられた駅伝となってしまったので、次の東北駅伝ではチームの勢いがつく走りをしたいと思っています。

◇**第四区 佐竹叶羽**(機械科二年二組) 今回の駅伝は、五年連続東北大会がかかった大事な駅伝でした。レースでは自分の区間に襷が渡ってきた時は7位で、自分の区間で絶対に5位以内に入るという気持ちで走りました。しっかりと5位で次の区間の選手に渡すことができ、後の同級生や先輩方が6位との差を広げてくれて、無事5位で東北大会出場を決めることができました。



◇**第五区 高橋直哉**(機械科二年一組) 今回の駅伝は、走る人全員がミスをしなれば5位以内に入れるといった状態でしたが、自分は五区を任せられ設定された目標を目指し、みんなの思いも背負い五区を走りました。全体の結果としては、東北大会に出場する切符を手にすることが出来ました。ですが、タイムが去年よりも4分位差があったので、東北大会では、それぞれの課題を見直して生かしたいと思っています。

◇**第六区 紺野龍功**(機械科三年一組) 今回5位という結果を残すことができ、東北大会への駒を進めることができました。五年連続東北大会出場となりますが、正直なところあまり喜べません。自分たちの目指す記録に届かず、ライバルとしている利府高校に大きな差をつけられてしまったからです。課題が残る大会ではありませんが、自分たちはまだまだ成長していけるチームです。課題を改善し東北大会で納得のいく結果を出せるように頑張ってきたと思います。応援ありがとうございました。

◇**第七区 千葉拓哉**(土木情報科三年) 四年連続で東北大会へ出場してきたタスキを今年も繋ぐことができてよかったです。この結果を残すために日々の練習や夏合宿など乗り越えてきました。特に夏合宿では一日に走る距離が増え厳しい練習でした。その中でも仲間と声を掛け合いながら乗り越えることが出来ました。辛いことの方が多かったのですが、諦めずにやってきてよかったです。大会当日は序盤で出遅れる展開となりましたが、チーム一丸で走り5位という結果を残せました。東北大会もチーム一丸で走り、一つでも上の順位を目指して頑張ります。

齋監督は、通算十一度目の東北大会出場